

## 第3回滋賀県製品等を通じた貢献量評価手法検討会 議事要旨

日時：平成24年2月15日 14:00～16:00

会場：環びわ湖大学・地域コンソーシアム会議室

出席者：笠坊委員、橘井委員、梶山委員、竹内委員、仁連委員（座長）、橋本委員

議題：（1） 中間とりまとめ素案について

（2） その他について

議事概要：

### 1. 中間とりまとめ素案について

#### (1) 貢献量の定義について

- ・現在の素案では、「県内製造事業所で製造された製品・技術」が対象となっているが、「低CO2川崎パイロットブランド」のように、「県内で研究開発された製品・技術」、「県内で確立された生産プロセス技術」についても対象とすべきではないか。
- ・貢献量の提出の際には、どのような貢献量の定義で算出された値であるか、わかるようにした方がよい。貢献量の定義別にフォーマットをつくることも考えられるのではないか。

#### (2) 貢献量の配分・寄与度について（事業所単位で作成する行動計画等と本検討会での貢献量評価の関係について）

※中間とりまとめ素案の「貢献量の定義」、「部品・素材の貢献量評価」、算定例等に関連

- ・貢献量を配分することは、現段階では基本的には困難であるため、設定できる者は設定してもよい、とのスタンスで記述してはどうか。また、「当面」ではなく、将来的にも部品・素材の評価の際に最終製品の貢献量を用いることを認めていただきたい。
- ・寄与度を設定した貢献量の配分は、現段階では難しいと考えられるが、あるべき姿として考え方は示しておくべきである。
- ・素案の算定例では、付加価値による配分が記載されているが、付加価値とCO2削減への寄与には相関がなく、経済価値による配分では事業者のモチベーションが下がる。算定例において付加価値による配分を具体的に示すと、付加価値での配分を推奨しているように見えることが懸念される。具体的に配分方法を示すことには反対である。
- ・貢献量評価や貢献量の配分について、業界団体が検討が進められているところがあるので、業界団体の方針に従ってよいことを記載していただきたい。
- ・削減量の配分では、使用者（事業者が使用者となることもある）への配分も考慮すべきである。ダブルカウントがあまりに膨大にならないようにした方がよい。
- ・低炭素社会をリードしていく企業・製品を応援することが基本的な目的であるため、できる限りプラスで評価すべきである。そのような観点から、貢献量を事業所間で

無理に配分する必要はないと考えられる。事業所単位の枠を外して、製品単位で考えることになるのではないか。

### **(3) 製品の使用先の範囲**

- ・海外等の算定条件が明確な場合は各国・各地域のデータを用い、条件がわからない場合には国内の条件等、わかる範囲でのデータを使えばよいのではないか。

### **(4) 評価する活動範囲**

- ・素案ではライフサイクルでの評価が基本とは記載されているものの、全体として使用段階のみの評価が想定された記述が多い。もう少し「ライフサイクル」とのキーワードを明確に出していただきたい。
- ・例えば、家電製品等ではライフサイクルの排出量のうち9割以上が使用段階の排出であり、残りの何%分の算定に多くの時間、労力をかけることは難しい。例えば、ライフサイクルで85%以上を占める段階を対象に評価すること等としてはどうか。
- ・乗用車や家電製品等は、ライフサイクルの中で使用段階の排出量が多いものは例を示してはどうか。
- ・比較対象製品が自社製品でない場合に、標準的な値を用いることが考えられるが、ライフサイクルで考えると評価に必要な情報が揃っていないことがある。

### **(5) 評価する製品等の範囲**

- ・製品の区分についての記載は自動車为例に記載されているが、自動車には既存カテゴリーがあるので、それも踏まえる必要があるのではないか。

### **(6) 電力等の排出原単位(排出係数)等の算定条件**

- ・電力の排出係数は、製品の使用先の場所によっても異なる。
- ・電力の排出係数について、日本や関西電力の排出係数は世界的にも小さい。海外の値がわからない場合等に国内の排出係数を用いることは、過大評価にはならないためよいのではないか。
- ・電力の排出係数は、毎年、その年の値を設定する必要があるか、との議論もある。
- ・排出係数の見通しが示されるのかどうか、を考えておく必要があるのではないか。

### **(7) 貢献量評価の算定例**

- ・算定例は複数の例を示した方がよい。

### **(8) 事業所の(製造時)排出量の計画と報告について**

- ・事業所の排出量の計画と報告については、CO<sub>2</sub> 排出量の絶対量だけでなく原単位をみることも重要ではないか。CO<sub>2</sub> 排出量は、一次エネルギー構造の変化の他に、円高による事業構造の変化等、様々な影響を受ける。絶対量と原単位の両方をみるこ

とが必要ではないか。

- ・今後、電力の電源構成の大きな変化が見込まれることについては、長い目で見れば収束していくと考えられる。また、たちまちの対応としては、原単位を固定して真の事業所の取組の努力が示されるようにすることもアイデアとして考えられる。

## 2. その他について

### (1) 今後のスケジュール

- ・中間とりまとめ素案について、本日の議論を踏まえて作成した中間とりまとめ案を委員に提示してご意見をいただき、年度末までに中間とりまとめとして作成予定であるため、ご協力をお願いしたい。

### (2) 貢献量評価全体について

- ・新しい技術や、社会に貢献した企業は評価されるべきである。今後、生産時の排出量と削減量が比較して議論になる可能性もあるため、削減量があまりに過大になりすぎないように注意する必要がある。
- ・削減量が過大評価にならないよう、保守的に算定することを考え方として記載することも考えられる。
- ・現段階では貢献量評価が多くの企業に広まることが重要であり、厳密性の議論は貢献量評価がより広まってからではないか。
- ・算定条件を併記しながら貢献量を出すことで一定の説明責任を果たすことになるのではないか。

## 3. 閉 会

以 上